

▼九〇年代は、昭和天皇の崩御、平成天皇の即位でスタートした。思えば八〇年代は、金属バット殺人事件で始まり連續幼女殺人事件で終わった。ここには、戦後、家族形態の変化によって絶体的家父長の権利が失墜し、

都市の新興化とメディアの発達によって地域社会が変革し、家が解体しつつあるという流れが見える。メディアの発達と家族の変容がパラレルに進行している中で、宗教者は社会にどうインパクトを与えていくのか。今、それが求められているのではないか。そして世界では、湾岸戦争が始まった……。

今回の所報では、これらの問題にも関係する天皇、情報化社会と宗教、僧侶の教育について、諸先生方が論じられたものをお届け致します。

(木村)

▼情報産業の発展は近年目を見張るものがあり、企業システムや人の生活にも大きな変化がみられる。しかしながら当然それにはコマーシャリズム、などによる弊害があり、一つには「豊かさ」として言われるものがそうである。情報の利用集団が小規模化して行けば行く程そ

の溢れる情報の中での受け手、送り手側による取捨選択が必要となり、それぞれのノウハウや質が問われる。

そう言つた情報化社会成立の過渡期の今、宮川了篤先生、野崎茂先生の御講演は自己の在り方と情報などの関わりを再考させるものではないだろうか。

(山添)

▼教化学研究の福山・南條両先生の報告からは、法華経から時代の要請にあつた宗学を作り出し、現状を踏えたうえで、教師のこれから担うべき諸問題を解決し、子弟に解り易く説く事の大切さを痛感した。

(稻葉)

▼かつて敗戦により焼け野原となつた東京に立つて「残された人間こそ資源である」と叫んだのは、石橋湛山である。人材不足が深刻な社会問題となつてゐる今日、後継者教育が如何に明日の明暗を分けるかは、宗教界においてもしかりである。第二回を迎えた教団研究セミナーにおける中野東禅先生の講演は、教団の抱える問題点を浮き彫りにしたもので、一刻も猶予ならぬ課題として関心を得るところである。

(竹岡)

▼御講演、御執筆賜わりました各聖に心より御礼申し上げます。